

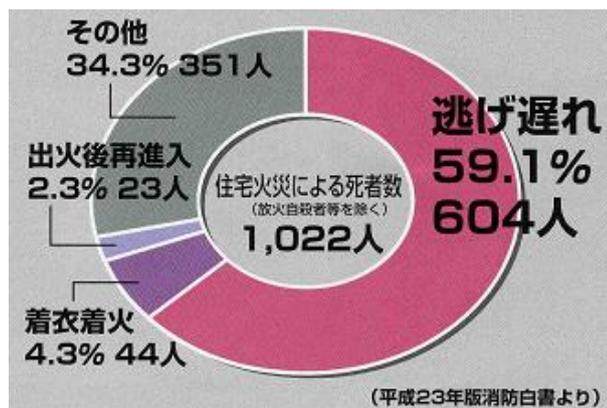
# 住宅用火災警報器はついていますか？

消防法により、すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務づけられています！

## ・設置の必要性について

### ・住宅火災による死者の原因

火災による死者の原因の半数以上は逃げ遅れによるものです！



### ・設置による効果

住宅用火災警報器等の設置により死者数は約3分の1に減少しています！



### ・警報器の奏功事例

#### <寝室の場合>

就寝中に火災警報器の音で目を覚まし初期消火に成功した。



#### <台所の場合>

天ぷら油を加熱したまま、その場を離れてしまったが、警報音により気付いた居住者が、初期消火と119番通報した。



## ・購入について

家電販売店やホームセンター等で販売しています。  
NSマーク（日本消防検定協会の鑑定マーク）は、国の基準に合格したものに付いていますので、購入の目安としましょう。

悪質業者による訪問販売に注意しましょう。



## ・設置場所について

《住宅に火災警報器を取り付ける場所(例)》



必要な場所 (○印)  
寝室、階段 (寝室が2階以上にある場合)  
→ 煙式

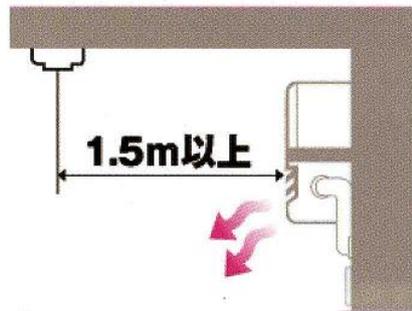
設置をおすすめする場所 (□印)  
台所 → 熱式

## ・取付位置について

＜天井へつけるときは＞

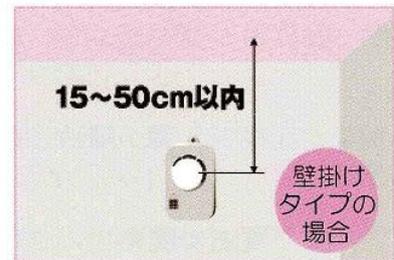


火災警報器の中心を壁から60cm以上離して取付ます。天井にはりがある場合には、火災警報器の中心から60cm以上離します。



エアコンや換気扇の吹き出し口付近では、1.5m以上離しましょう。

＜壁につけるときは＞



天井から15～50cm以内に火災警報器の中心がくるようにします

## ・警報器を取付けた後は

火災警報器はいざというときに効果を発揮するものですが、長く取り付けていれば、家電用品と同じように故障や交換が必要だったりすることもあります。実際に火災がおきた時に、きちんと警報されるよう、お手入れが必要です。



- ◇定期的に(1月に1度程度)、警報器が鳴るかテストしましょう。
- ◇電池式の場合は電池交換が必要ですので、早めに交換しましょう。
- ◇警報器はおおむね10年をめぐりに交換しましょう。